東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 11 月 21 日

若さ

親愛なるムスリムの皆様。

私たちの人生では、全ての年代にそれぞれの美しさがありますが、若い時代のもつよさはまた特別です。だからこそ、若かった頃のことはいつも懐かしく思い起こされるのです。ある詩人は、「ああ若年時代よ。いつか戻ってきたら、そして老いが私に何をしたかを語ることができたら」と詠い、その思慕を表現しています。しかし過ぎ去った時間は二度と戻らないのです。預言者ムハンマドはあるハディースで、「老いる前に若さの価値を知りなさい」と仰せられ、若者たちに警告を与えられています。若者時代の日々が過ぎていくものであることに気づいた理性ある人は、その価値を知り、その時代を後悔することのない形で過ごすべく努力するのです。

親愛なるムスリムの皆様。

若者時代は、あらゆる種類の迷信や逸脱した考え、毒になるもの、性産業の商人などの標的です。若者たちがそういったものから救われるためには、何よりもまずしっかりとした信仰のよろいを身に付ける必要があります。なぜなら強い信仰はあらゆる悪に対する最大の避難所であるからです。アッラーは次のようにおおせられておられます。「信仰して主に縋る者に対しては、（悪魔）はどんな権威も持たない。」（蜜蜂章第９９節）信仰を必要とするのは、人の本質的な特性なのです。若者たちの信仰の器がからっぽであれば、誰かがそこに迷信や誤った信念を注ぎ込むでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。

みなにとってそうであるように、若者にとっても友人を選ぶことは大切です。預言者ムハンマドは、人が共に過ごしそばにいる友人を香りに似せられ、次のように言われています。「よい香りであれば私たちにもよい香りが、悪い香りであれば私たちにも悪い香りがつく」また別のハディースでは、「人はその親友の宗教上の道、そして生き方をたどる。だから誰と親友になるかに注意するべきである」といわれています。

若者時代、悪用される可能性のある危険な点の一つが、性的な感情です。ある若者が預言者ムハンマドのもとに来て、「アッラーの使徒よ、不義を働くことについて私に許可を与えてください」といいました。預言者ムハンマドは彼に向き直られ、質問を始めました。「あなたはそのようなことがあなたの母に対して行われることを望みますか？」「いいえ、アッラーの使徒よ、望みません」「妹に」「叔母に」「いいえ、求めません」預言者ムハンマドはいわれた。「あなたが行こうとしている相手も、誰かの母であり、妹であり、叔母なのだ。彼らもそのようなことは望まないだろう」そしてその若者がその感情から救われるようにドゥアーをされたのです。若者時代のこのような危険に対し注意をすることは、年長者の重要なつとめです。よいことを命じ、悪を遠ざけさせることは義務なのです。それらを聞くことも一つの徳であり、私たちはみなそれを必要としているのです。ウマルさまの言葉を借りるなら、「忠言を行わず、また忠告を聞かない集団には福はない」

今日のホトバを、預言者ムハンマドによる、若者たちについての吉報について語ることで締めくくります。「七人の人がいる。影を見つけることのできない最後の審判の日に、アッラーが彼らに影を与えられるだろう。その一つが、若者時代をイバーダで過ごした人である」